

MRI検査に関する説明と問診票

患者氏名

生年月日

検査日

身長:

cm

体重:

kg

MRI検査とは

「磁気共鳴画像撮影」とも呼ばれます。人の体の中には水素原子が数多く存在し、弱いですが磁気をもっています。その水素原子に電磁波を照射すると共鳴現象が起こりMRI信号が発生します。このMRI信号を画像化する検査です。体の各断面を鮮明に描出することが可能です。

検査手順

- 検査前に身につけている金属類、カイロ等をすべて取外し検査着に着替えます。
- 検査時間は20～60分です。(検査部位によって異なります)
- 検査中、具合が悪くなった場合、担当者にお知らせください(担当者とは会話が可能となっています)
- 検査中は機械音がしますが故障ではありませんのでご安心ください。

* 安全に検査を行うために以下の問診にお答えください。

* 問診の結果によっては、身体の安全性を考慮し検査を中止することがありますので、ご了承ください。

問診項目は必ずご記入ください。

● 心臓ペースメーカーを装着していますか？ (禁忌)	はい ・ いいえ
● 人工内耳・耳小骨を植め込んでいますか？ (禁忌)	はい ・ いいえ
● 手術や治療、外傷などで身体の中に金属が入っていますか？ 脳動脈瘤クリップ、人工骨頭、人工関節、心臓人工弁、ステント、塞栓用コイル、義眼 避妊用金属リング、おき針、その他()	はい ・ いいえ
● 閉所恐怖症(狭いところが苦手)ですか？	はい ・ いいえ
● 刺青やアートメイクをしていますか？	はい ・ いいえ
● 女性の方へ、妊娠中または妊娠の可能性はありますか？	はい ・ いいえ

問診医師

(自署)

問診確認技師サイン:

MRI検査における造影剤使用に関する問診票・同意書

検査日 _____

氏名 _____

造影剤の使用目的

造影剤を使用することにより臓器の形が明瞭となり、病変の有無や性質、あるいは広がりなどが鮮明に確認できます。病気の正確な診断や治療の効果を判定したりするための大変有効な薬剤です。

腎臓機能が正常であれば、注射後6時間で80%以上が腎臓から尿として排出され、やがて全てが体外へ排出されます。

造影剤の投与方法

造影剤は血管(静脈)に穿刺して注入します。穿刺する際に稀ではありますが皮下血腫、神経損傷、血管迷走神経反射等の合併症がおきることがあります。ご経験のある方は検査前にお申し出下さい。

副作用について

造影剤は安全な薬剤ですが、稀に副作用が起こることもあります。最近では副作用の少ないものが開発されて用いられていますが、それでも全く危険性をなくすことはできません。

軽度な副作用を含めて約1~2%前後で副作用が生じます。そのほとんどが吐き気、じんま疹、顔のほてりといった軽い、一過性のものです。しかし極めてまれですが重篤な副作用が生じることがあります。その場合、担当医と主治医が最善の対処をいたします。検査終了後に生じる遅発性の副作用が生じた場合、すぐにご連絡ください。

MRI造影検査問診票

● 腎機能障害はありますか？	クレアチニン()mg/dl	はい ・ いいえ
● 気管支喘息はありますか？		はい ・ いいえ
● 肝機能障害はありますか？		はい ・ いいえ
● アレルギーはありますか？ (薬剤: 其他:)		はい ・ いいえ
● 過去にMRI造影検査をうけて気分不良などがありましたか？		はい ・ いいえ

問診医師 _____

(自署)

* 造影剤の副作用の起こる確率が高くなると考えられる場合、医師の判断で造影剤を使用しないことがあります。ご了承ください。

同意書

調布東山病院長 殿

このたび、私が貴院において、造影剤使用検査を受けるにあたり担当医からその内容について十分な説明を受け、診療上必要であることを理解いたしましたのでその実施を同意します。

尚、実施中に緊急の処置を行う必要が生じた場合には、適切な処置を受けることについても同意します。

西暦 _____ 年 _____ 月 _____ 日

患者氏名 _____ (自署)

家族氏名 _____ (自署) 続柄: _____

造影検査を受けられる方へ

造影剤の使用目的

今回、実施する検査では造影剤という検査薬を使用します。造影剤を使用することにより臓器の形が明瞭となり、病変の有無や性質、あるいは広がりなどが鮮明に確認できます。病気の正確な診断や治療の効果を判定したりするための大変有効な薬剤です。

造影剤の安全性

造影剤はきわめて安全な薬剤で、腎臓機能が正常であれば、注射後 6時間で約90%が尿として排出され、やがて全てが体外に排出されます。

造影剤の投与方法

造影剤は血管(静脈)に穿刺して体内に注入します。その際、体が熱く感じますが正常な反応であり心配ありません。

造影剤が血管外にもれることがあります。通常は時間が経てば吸収されるので心配はありません。もれた量が多い場合には別な処置が必要となることがありますが稀です。

また、穿刺する際に稀ではありますが皮下血腫、神経損傷、血管迷走神経反射等の合併症がおきることがあります。ご経験のある方は検査前にお申し出下さい。

副作用について

造影剤は安全な薬剤ですが、稀に副作用が起こることもあります。

最近では副作用の少ないものが開発されて用いられていますが、それでも全く危険性をなくすことはできません。軽度な副作用(吐き気、動悸、かゆみ、発疹など)を含めて約3%前後で副作用が生じますが基本的に治療は要しません。しかし、中度・高度の場合 症状に応じて抗アレルギー剤や副腎皮質ステロイドの投与や気管内挿管などの特別な治療を要する場合があります。

また、造影剤の副作用には検査中や直後に生じる即時性のものと、検査終了後、数時間から数日後におきる遅発性のものとがあります。

お問い合わせ

造影検査や造影剤に関してご不明な点やご質問等ありましたら下記までご連絡ください。

調布東山病院 放射線科 042-481-5537 (直通) 月～土曜日 9:00～16:30